

寒地型永年牧草栽培マニュアル



農林技術開発センター畜産研究部門

H 2 5 年 3 月

寒地型永年牧草を利用して利用期間の延長と労力削減を！

長崎県では夏の牧草として暖地型永年牧草の「バヒアグラス」が採草用、放牧用としてよく利用されています。しかしバヒアグラスの特性上、日照時間が少ない地域や高標高地では定着しにくい場合があります。

また、冬～春に利用されている寒地型牧草の「イタリアンライグラス」は、単年牧草のため毎年播き直しが必要となります。そこで、寒地型永年牧草の「トールフェスク」、「オーチャードグラス」、「リードカナリーグラス」を利用することにより利用箇所の拡大及び利用期間の延長、毎年の播き直し労力の削減等を図ってみませんか？

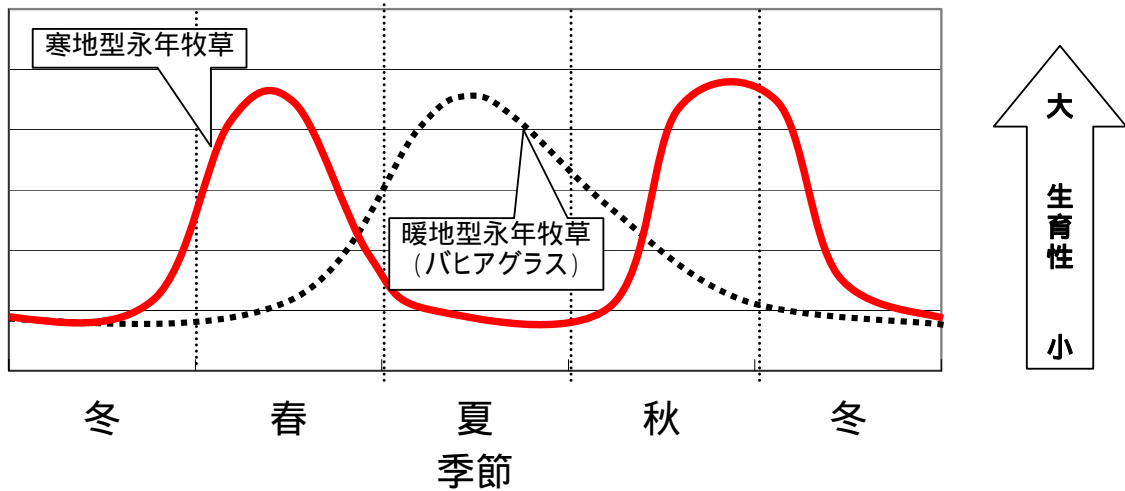


図1．暖地型永年牧草と寒地型永年牧草の生育イメージ

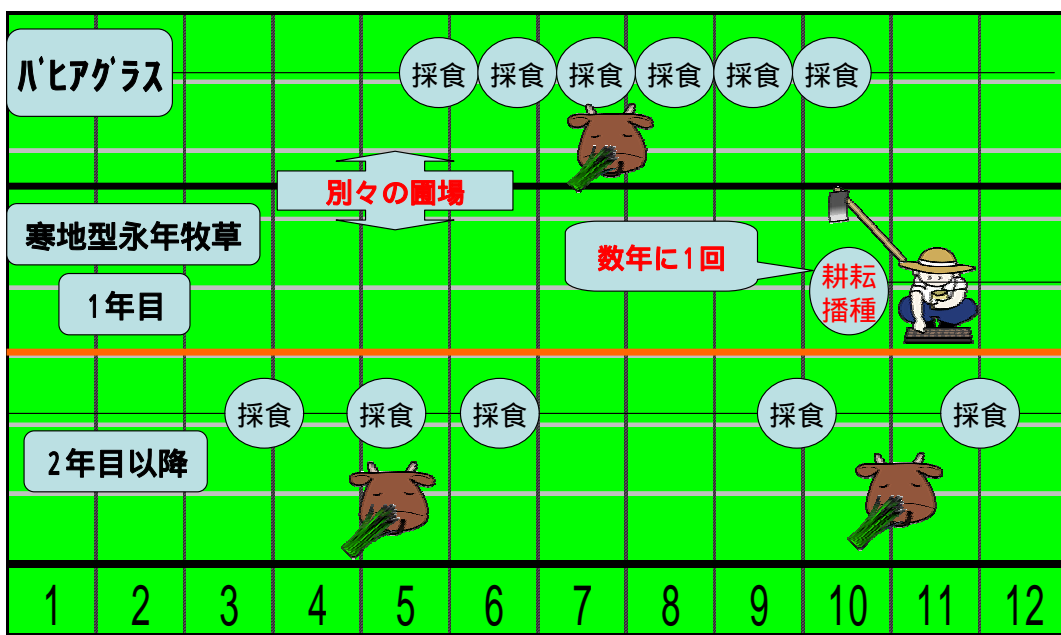


図2．バヒアグラスと寒地型永年牧草を組み合わせた栽培・利用のイメージ

寒地型永年牧草の特徴について

トールフェスク（和名；オニウシノケグサ）

イネ科・多年草。夏の高温、乾燥に良く耐え、越夏性が高く、収量も多い。春の生育は旺盛で、7月上旬まで利用しても秋からの再生は問題ない。草質は硬めで刈り遅れると嗜好性が落ちる。粗タンパク割合が3草種中最も低い。さび病の発生は少ないが、雲形病の発生が見られる。



オーチャードグラス（和名；カモガヤ）

イネ科・多年草。乾燥に強い。収量はイタリアンライグラス並で牧養力は3草種では中間。葉は互生で茎が扁平なのが特徴。草質はしなやか。湿害に弱く、水はけの悪い圃場では株が消失するおそれがある。初期成育が3草種中最も良好で、3月から利用が可能だが、6月中旬までに最終刈取りを終わらせないと秋からの再生率が悪くなる。



リードカナリーグラス（和名；クサヨシ）

イネ科・多年草。地下茎により増殖拡大する。3草種中最も春先の成長が遅く、利用可能となるのは4月中旬からとなる。しかし越夏率は高く、7月上旬まで利用可能。湿害に強く、水田転作地にも向く。草中の粗タンパク割合が高い。収量は3草種中最も低く、出穂後は嗜好性が急激に悪くなる。さび病に罹りやすい。



寒地型永年牧草の利用体系

草種	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
トールフェスク				△	△	△	△		○	○	○	
オーチャードグラス			△	△	△	△			○	○	○	
リードカナリーグラス				△	△	△	△		○	○	○	
パヒアグラス					△	△	△			△		

○・・・播種時期 ◎・・・播種適期 △・・・刈取時期（放牧時期）

草種の特徴

	出穂期	耐暑性	耐湿性	耐乾性	利用性			収量性		栄養性	
					放牧	乾草	サイラージ	生草収量	乾物収量	CP(%)含量	TDN
トールフェスク	4月下							981	190	16.3	66.2
オーチャードグラス	3月下		x					779	149	18.3	64.8
リードカナリーグラス	5月下							665	119	22.5	57.8

生草、乾物収量はH20～H24の平均。単位はkg/a。

粗CP(%)含量、TDN(可消化養分総量)はH20～H24の平均。単位はDM%。

1、草地造成について

- ・ 土壤改良資材として苦土石灰を100kg/10a、完熟堆肥1.5～2t/10aを施用する。
- ・ 元肥として化学肥料を10aあたり成分でN:P:K=10:14:10kg施用する。
- ・ 早春肥（追肥）として化学肥料10aあたり成分でN:P:K=5:5:5kg施用する。

2、播種について

- ・ 播種適期は草種ごとにわずかな違いが見られるが、平均気温がおおよそ25℃を下回ったときが良い。
- ・ 播種量は各草種とも3kg/10aを目安にする。
- ・ トールフェスク、リードカナリーグラスは初期成育がイタリアンと比べて遅めなので播き遅れに注意。（播き遅れると早春に雑草に被圧されやすい）

3、掃除刈りについて

- ・ 2月中旬～下旬の平均気温が10℃を数日上回るときに実施すると良い。

4、採草利用の場合

- ・ 早春に追肥を実施し、1番草は出穂始め～出穂期には刈り取りを行う。
- ・ 夏枯れ防止のため、梅雨期～盛夏期にかけては極端な低刈りを避ける。（7cm～10cm程度）
- ・ 刈り取りごとに追肥として化学肥料10aあたり成分でN:K=2:2kg施用する。
- ・ トールフェスクは数年経過すると株化し、雑草の侵入により草地の衰退が見られるので、裸地を覆う程度の草丈で夏を越す。
- ・ オーチャードグラスは草丈の長い状態で夏に入ると葉腐病やさび病の発生が出る恐れがあり、逆に草丈が短すぎると雑草に被圧される恐れがあるため最終刈取りは10cm程度で行う。
- ・ 秋期利用開始のタイミングは9月中～下旬の平均気温25℃を数日下回りそうな時が良い。

5、放牧利用の場合

- ・ 牛を放牧するので早春肥は控えめにする（N:P:K=2:2:2）
- ・ 早春のスプリングフラッシュがあるので早めに（草丈40cm）、強めに放牧をする（掃除刈り）。
- ・ 草丈が10cm程度になったら移動する。退牧時には追肥を施用する（10a当りN:K=2:2kg。）
- ・ 夏枯れ防止のため、梅雨期～盛夏にかけては過放牧及び頻繁な利用は避ける。

3月時点の草勢



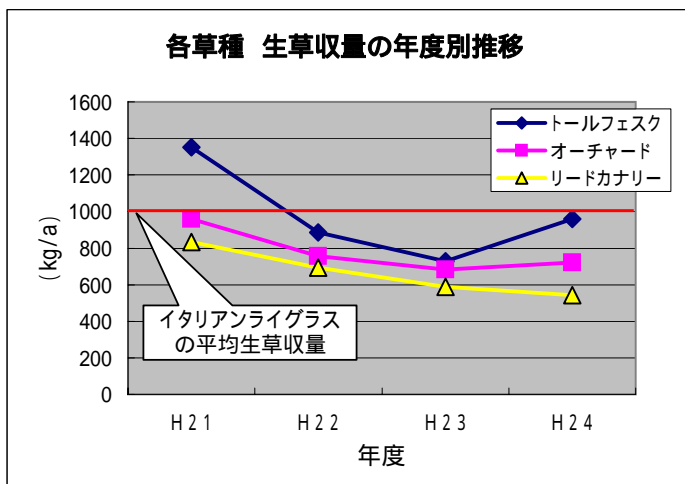
6月時点の草勢



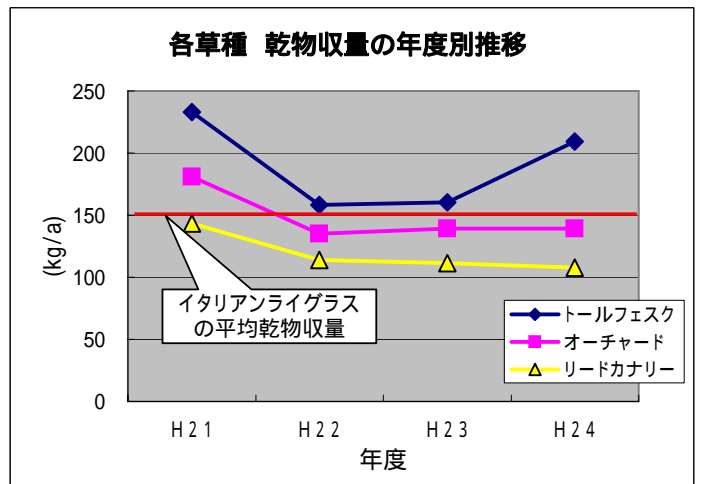
トルフェスク

オーチャードグラス

リードカナリーグラス



平成22、23年は春先の温度が上がらなかったため収量が低かった



平成22、23年は春先の温度が上がらなかったため収量が低かった

